災害は忘れぬうちにやってくる

講談師　一龍斎貞花

寺田虎彦が「天災は忘れた頃にやってくる」と言ったが、今年は関東大震災100年とあって当時の被害が報道されているが、改めて歴史上の災害を振り返ってみよう。

869年の貞観地震の「ここより下に建てるべからず」という教訓が東日本大震災に低地に家を建てずに津波から助かった地域がある。矢張り体験からの教訓は大切です。

甲州釜無川は度々氾濫。甲州盆地を水害から守るため大改修。堤を造り氾濫を防ぎこの工法が徳川時代半ばまで行われた信玄堤といわれる治水工事。

震度7、M7.8、天正13年（1586）の大地震。近江長浜城全壊山内一豊の一人娘6歳の与祢（よね）姫圧死。大垣城も全壊焼失。三十三間堂の仏像600体が倒れた。

文禄5年7月（1596）真夜中M7の大地震。豊臣秀吉の様子いかにと第一番に桃山城にかけつけた謹慎中の加藤清正。誠意として謹慎を許されるという講談。芝居でおなじみ地震加藤。

名君の復興対策

江戸の華といわれる程火事が多かったが、1657年の明暦の大火。江戸の大半と江戸城本丸、天守閣焼失、三代徳川家光の腹違いの弟で名君の保科正之は、

「市民の飢えを防ぐため一日千俵の米の炊き出し、今の千代田・中央区ほぼ全焼、間口一間につき3両1分ずつの義援金をだしましょう」

「本丸に天守閣も再建しなければいけない。そんなに出したら金蔵も米倉も空っぽになります」と老中反対。

「今は戦はない。市民のために」と16万両、4代家綱の時代、今に換算すると160億円放出され復興に尽力。更に江戸に出府している23大名に帰国命令。人口の半数が武士だったので米の需要を減らし価格の安定。正之は、

「緊急対策のため天守閣は予定より遅くなるがいずれ建てましょう」

しかし幕府が倒れ遂に建てられないまま現在に至っている。いい名君がいたんです。今の政治家と比べないで下さい。

この火災により、定火消しの任命、さらに享保年間大岡越前守が、町火消いろは48組の世界最初の消防隊を編成。

宝永4年（1707）富士山大噴火。富士山から100kmも離れた江戸に最初は白い灰、その後黒い灰が降り市中に積もった火山灰は0.6～0.9㎝。この灰の降下により損壊したと考えられる遺構が多くある。

天明3年（1783）、浅間山の噴火、山麓の村々の直接的な被害だけでなく降灰が作物を枯らして、この後の天明の飢饉の引き金となったといわれ、成層圏に噴き上げられた灰が直射日光をさえぎり、全世界的な規模で不作を招いたとさえいわれるほど。山麓の村の中でも吾妻（あがつま）郡今の嬬恋（つまこい）村は一村壊滅に近く、流れ出た膨大な溶岩の奇勝鬼押し出し園、溶岩から逃れようとして石段を駆け上りながら、あと二、三段のところで溶岩のために命を落した人の話が涙を誘

う。土壌が悪く作物作りに適せず、キャベツを作りこれが嬬恋キャベツと評判になった。現地の被害高総計6，000石余、死者1，100人余、被害家屋1，800軒余、死馬500匹余と記録がある。江戸でも鳴動鳴り止まず栗ほどの大きな砂礫が降り、泥砂火石流による死体が利根川から中川、江戸川に漂着し葛飾柴又の題経寺、江戸川区東小岩の善養寺に供養碑が建てられている。

伊豆諸島は富士山火山帯に属し、伊豆大島の三原山、三宅島、青ヶ島、鳥島など噴火の記録があり、最近でも2022年5月の鳥島近海地震がある。

小笠原諸島の地震、そして南海トラフにおける大地震の可能性も高まっているといわれる。また福井県高浜の原子力発電所は地震の起る恐れありと心配されている。

明和9年（1772）2月、目黒行人坂大円寺から出火、南西の風にあおられ麻布、芝から江戸府内に拡大。被害は見附8、大名屋敷169、寺社382、橋170、罹災した街934、死者14，700人、行方不明4，060余人という大災害。熊谷無宿の長五郎坊主が窃盗目的で放火、6月江戸市中引廻しのうえ火あぶりの刑。

防火対策として仮小屋でも茅葺、藁葺禁止、表通りは土蔵造、瓦葺にすること、往来にはみでる家作は禁止など建築規制。火災時大八車などに荷物の運搬、家財や商品を路上に持出し厳禁。更に材木など建設資材、諸物価、大工など諸職人の手間賃の値上げ禁止し、違反を厳しく取締るなど物価対策に力を注いだ。東日本大震災の時は建設資材が大高騰でした。

安政2年（1855）10月の安政江戸大地震、震源地は荒川河口とされ、武家屋敷約80％が焼失、全壊半壊の被害、死者1，860人。町方の倒壊家屋14，346軒、土蔵1，402、死者4，293人。被災大名に対し幕府から無利息10年年賦で老中内藤紀伊守と阿部伊勢守の2人最高の一万秤貸与。御家人には禄高に応じて被下金。それらの総額八万八千両余り。最下層の町方窮民、日稼者に対し、救小屋6ヵ所3年正月末まで。焚出延人員20万2，400人、10月13日から19日まで。救米38万1，200人に。民間では施行と呼ばれる富商による一般町民への救済策が行われた。江戸での災害発生の情報はただちに全国へ伝達、藩の急飛脚などで津軽藩弘前へは発生から10日後、九州諸藩へは14日後には届けられた。民間へは早飛脚で京・大坂へは発生4日後に伝えられた。江戸市民は瓦版によって情報を得た。

小石川の水戸藩邸倒壊、徳川斉昭の腹心藤田東湖が母を背負って逃れんとして倒れた家屋のため圧死。指導者を失った水戸藩は内部抗争が起き、安政7年の桜田門外の変につながったというから歴史に関わる大地震でした。

関東大震災では、東京市長（知事）後藤新平の道路を広く樹を植え公園によって類焼を防ぐ。鉄道、地下鉄など都市構想は現代につながっている。

吉原遊郭では猛火に追われた遊女30人が花園池に飛び込み溺死。逃げないよう遊郭へ閉じ込めたためではないか、600人死亡と誇張された悲劇。現在花園池の場所に吉原弁財天があり、慰霊祭が行われている。香川県の薬売行商人が讃岐弁で会話したことから朝鮮人に疑われ殺害された福田村事件。

昭和19年12月の東南海地震。200人以上の死者。

昭和20年1月の三河地震、M7.9。授業、勤務時間帯とあって学校・軍需工場等で死者1，223人。

日本の劣勢が濃くなった戦時下軍需工場が集中する東海地方の地震とあって「戦力低下を推知セシムルが如き事項」として報道禁止され被害の詳細は不明。都合の悪いことは報せない。

330人の東京大空襲などの戦争体験を収録しながら大部分非公開。報告書類もノリ弁返答が多い。日本は臭いものにはフタが続いている。

情報公開が叫ばれているものの非公開が少なくない。企業でも隠したことが後でばれ大事にいたった例も少なくない。

なお、日本で一番自信の少ないのは富山県、過去30年間全国最小。

江戸の災害書けばきりありません。南極の永久凍土も解け続けているという、今や沸騰化といわれ世界中に地震、豪雨、洪水、山火事、台風等被害甚大です。

まずは各家庭、古い建物には耐震ブレーカーの設置されていない家屋が少なくありません。設置義務化されていますでしょうか。

（参考文献・江戸東京学事典三省堂刊）